

平成 19 年 9 月 28 日

各 位

会 社 名 富士電機ホールディングス株式会社  
 代表者名 取締役社長 伊藤 晴夫  
 (コード番号 6504 東証・大証・名証第1部・福証)  
 問合せ先 経営企画担当ゼネラルマネージャー  
 南 浩一  
 (TEL . 03 - 5435 - 7213)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 19 年 7 月 27 日の決算発表時に公表した平成 20 年 3 月期(平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)の中間期連結業績予想及び平成 19 年 4 月 26 日の決算発表時に公表した通期連結業績予想を下記の通り修正致しましたのでお知らせ致します。

記

### 1. 平成 20 年 3 月期連結業績予想数値の修正

(1) 中間期(平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日)

連結業績予想

(単位：百万円)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 ( A )	413,000	3,000	3,000	500	0 円 70 銭
今回修正予想 ( B )	406,000	0	1,000	2,500	3 円 50 銭
増 減 額 ( B - A )	7,000	3,000	4,000	3,000	4 円 20 銭
増 減 率 ( % )	1.7%	100.0%	-	-	-
(ご参考) 前年同期実績 (平成 19 年 3 月期中間期)	400,964	6,772	7,644	3,659	5 円 12 銭

連結部門別売上高・営業利益予想

(単位：億円)

	売 上 高			営 業 利 益		
	前回発表	今回修正	増 減	前回発表	今回修正	増 減
電機システム	1,500	1,500	±0	75	75	±0
機器・制御	970	940	30	50	40	10
電子デバイス	950	900	50	50	30	20
リテイルシステム	790	800	+10	10	10	±0
そ の 他	300	300	±0	5	5	±0
消去又は全社	380	380	±0	10	10	±0
合 計	4,130	4,060	70	30	0	30

## (2)通 期 (平成 19 年 4 月 1 日 ~ 平成 20 年 3 月 31 日)

## 連結業績予想

(単位:百万円)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	960,000	47,500	46,000	24,500	34円27銭
今回修正予想 (B)	960,000	36,500	34,000	17,000	23円78銭
増減額 (B - A)	0	11,000	12,000	7,500	10円49銭
増減率 (%)	-	23.2%	26.1%	30.6%	30.6%
(ご参考)前年同期実績 (平成 19 年 3 月期通期)	908,059	46,208	48,762	23,142	32円37銭

## 連結部門別売上高・営業利益予想

(単位:億円)

	売 上 高			営 業 利 益		
	当初計画	今回予想	増 減	当初計画	今回予想	増 減
電機システム	4,000	4,200	+200	95	125	+30
機器・制御	2,000	1,970	30	120	110	10
電子デバイス	2,150	2,000	150	220	95	125
リテイルシステム	1,650	1,630	20	45	35	10
その他	620	640	+20	20	20	±0
消去又は全社	820	840	20	25	20	+5
合 計	9,600	9,600	±0	475	365	110

## 2. 修正の理由

## (1)中間期

売上高は、「電機システム」、「リテイルシステム」の各部門においては計画通りに推移する見込みです。しかし、電子デバイス部門では、ディスク媒体分野での業界再編影響の顕在化、並びに主要顧客の販売減影響を主因とした売上減、半導体分野でのプラズマテレビ市場の伸び悩みによるドライバICの物量減により前回発表値を下回る見込みです。機器・制御部門では、器具分野において国内市場の低迷の影響を受け物量未達となり、需要の好調な駆動制御分野では部材調達を含めた生産面でのボトルネックの影響が残り前回発表値を下回る見込みです。結果として全体では前回発表値を下回る見込みです。

損益面は、売上高の減少に伴い電子デバイス部門、機器・制御部門において前回発表値を下回り、全体として前回発表値を下回る見込みです。

## (2)通 期

売上高は、電機システム部門では鉄鋼や化学を中心とする民需分野の旺盛な設備投資により引き続き好調を持続し、当初計画を大幅に上回る見込みです。しかし、電子デバイス部門では当初計画を大幅に下回る見込みです。分野別では、ディスク媒体分野ではガラス媒体が当初計画を大幅に上回る一方、アルミ媒体での業界再編および主要顧客の販売減影響、並びに市場の状況変化に即応した設備の垂直記録方式への切替えの加速推進により当初計画を下回る見込みです。半導体分野では産業用 IGBT モジュールが計画以上に伸長するものの、上期に引き続きプラズマテレビ用ドライバICの物量減により当初計画を下回る見込みです。機器・制御部門においては、駆動制御分野では堅調な需要に対応した生産能力の増強を図り当初計画通りとなりますが、器具分野は当初計画を若干下回る見込みです。リテイルシステム部門では顧客の投資抑制影響を受けた自販機・フード機器・通貨機器分野にて当初計画を若干下回る見込みです。結果として全体では当初計画通りとなる見込みです。

損益面は、電機システム部門で当初計画を大幅に上回る見込みです。しかし、収益力の高い電子デバイス部門において、ディスク媒体分野ではアルミ媒体の大幅な売上減による影響、半導体分野では積極的な設備能力増強を行っている産業分野向けが好調に推移する一方、市場の伸び悩みの影響を受けるプラズマテレビ用ドライバ IC の売上減並びに電源 IC の拡大に向けた体制整備により当初計画を大幅に下回る見込みです。また、機器・制御部門、リテイルシステム部門でも売上減の影響を受け、当初計画を若干下回り、全体として当初計画を大幅に下回る見込みです。

**【注記事項】**

本資料における予想値及び将来の見通しに関する記述・言明は、弊社が現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づいております。その判断や仮定に内在する不確実性及び事業運営や内外の状況変化により、実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なる可能性があり、弊社は将来予測に関するいかなる内容についても、その確実性を保証するものではありません。

以 上